

日本の交響楽運動の黎明期——三越少年音楽隊を中心として——

三枝まり

要旨：

三越少年音楽隊は明治 42 年に成立し、大正 14 年に解散するまで、民間の交響楽団として活動し、その後の音楽界の重鎮となる人材を次々と育てた。しかし、この少年音楽隊員が我が国の交響楽運動において大きな役割を担ったことはあまり知られていない。そこで、本稿は明治末から大正期の交響楽運動を研究する中から、三越少年音楽隊の成立と、その意義及び背景、その発展史と日本の西洋音楽普及に及ぼした役割等を考察した。

この論考の結果、以下の点を指摘してまとめとした。三越少年音楽隊はジンタ（市中音楽隊）衰退後の代表的な民間の演奏団体として大正時代を通じて民衆に親しまれた。三越は音楽教育や演奏を主目的としたわけではなく、西洋的文明と近未来の繁栄のイメージ戦略の中で少年音楽隊を発足させた。欧化主義を旗印の下で、三越が提案した新しい生活文化が生活全般の指導原理となる中で、少年音楽隊の活動は三越のハイカラなイメージアップに貢献しただけではなく、日本の一般の人々に西洋文化や音楽の一端を知らしめるとともに、少年音楽隊の育成によって、音楽教育機関としての役割を担うことになった。